

## 1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

### (1) 一般犯罪

ドバイ警察によると、2018年中に認知した犯罪のうちに占める凶悪犯罪の割合は49.5%で、前年の67.7%と比較して減少した。また、同年中のレスポンス・タイム（通報から現場到着までの所要時間）の平均は9分3秒で、前年の12分8秒から大きく短縮された。

一方、同警察が2018年3月から導入したサイバー犯罪に関するウェブ上での被害申告受付について、これまでに9,000件以上の犯罪を受理したと発表。これらの被害には、ハッキング、ネット上での脅迫、詐欺、個人情報の詐取等が含まれる。

シャルジャ警察によると、2018年中の凶悪犯罪の発生は前年に比べ58%減少し、薬物関連の犯罪は61%減少した。また、年間合計で約400万件の緊急通報を受信しているところ、レスポンス・タイムの平均は約9分であった。

アジュマン警察によると、2018年中の犯罪認知件数は6,196件で、前年から約1,300件減少した。凶悪犯罪の発生件数は2,350件で、前年に比べ17%減少した。レスポンス・タイムの平均は約7分44秒であった。

### (2) テロ

特記事項なし。

### (3) デモ・騒擾等

特記事項なし

### (4) 外交団に対する犯罪

特記事項なし。

### (5) 日本人に対する犯罪

特記事項なし。

## 2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

### (1) 殺人等

#### ○ ドバイ首長国（1月18日発生）

アル・ムハイスナに所在する会社の労働者用宿舎において、35歳のインド人労働者は、酒に酔った状態で同社の同僚と口論になり、暴行を加えて同人を殺害した。

#### ○ アジュマン首長国（3月2日発生）

アル・ナウムヤーの路上において、30歳代のパキスタン人の男は、妻と離婚したことに憤慨して同女の兄弟を刃物で刺し、殺害した。犯人は逃走を図ったが、発生から12時間後にドバイ国際空港で発見され、逮捕された。なお、アジュマン警察によれば、同人の逮捕に際しては顔認証技術等の捜査手法を有効に活用したとのことである。

## (2) 強姦・強制わいせつ

### ○ ドバイ首長国（1月3日発生）

アル・ラファア警察署管内において、24歳のパキスタン人の男は、遊んでいた11歳のインド人の男児に声をかけ、名前やレジデンス名等を聞き出すなどした後、突然同男児に抱きつくなどして、強いてわいせつな行為をした。

### ○ ドバイ首長国（1月12日発生）

ラス・ル・ホール公園において、33歳のバングラデシュ人の男は、両親と一緒に遊びにきていた南アフリカ人の9歳の男児に対して、動物を見に行こうなどと声をかけて誘い出し、後方から抱きついて体を触るなどして、強いてわいせつな行為をした。

### ○ ドバイ首長国（3月7日発生）

アル・グサイスの住宅において、30歳のバングラデシュ人の清掃員の男は、清掃に訪れている先のインド人家族の6歳の女児に対して、頸部に口づけする、体を触るなどして、強いてわいせつな行為をした。

### ○ ドバイ首長国（3月3日報道）

ドバイのホテル内において、23歳のエジプト人の男は、求職中のフィリピン人女性に対して就職面接をするかのように信じ込ませて室内に誘い込み、部屋の鍵を閉めて同女を強姦した。

## (3) 強盗

### ○ ドバイ首長国（1月29日発生）

デイラ地区の路上において、首長国人とシリア人の労働者2人組は、多額の現金を鞆に入れて歩いていた49歳の男に対して、捜査員であるかのように振る舞った上で無理やり自動車に押し込んで連れ去り、所持していた170万ディルハムを強取した。

### ○ シャルジャ首長国（3月20日発生）

20歳代のアフリカ人の男4人組は、ナイフやハンマーで武装した上で、シャルジャ市内の両替所に押し入り、ガラス製の遮蔽板を破壊するなどして、現金230万ディルハムを強取した。

## 3 日本企業の安全に関する諸問題

特記事項なし。